

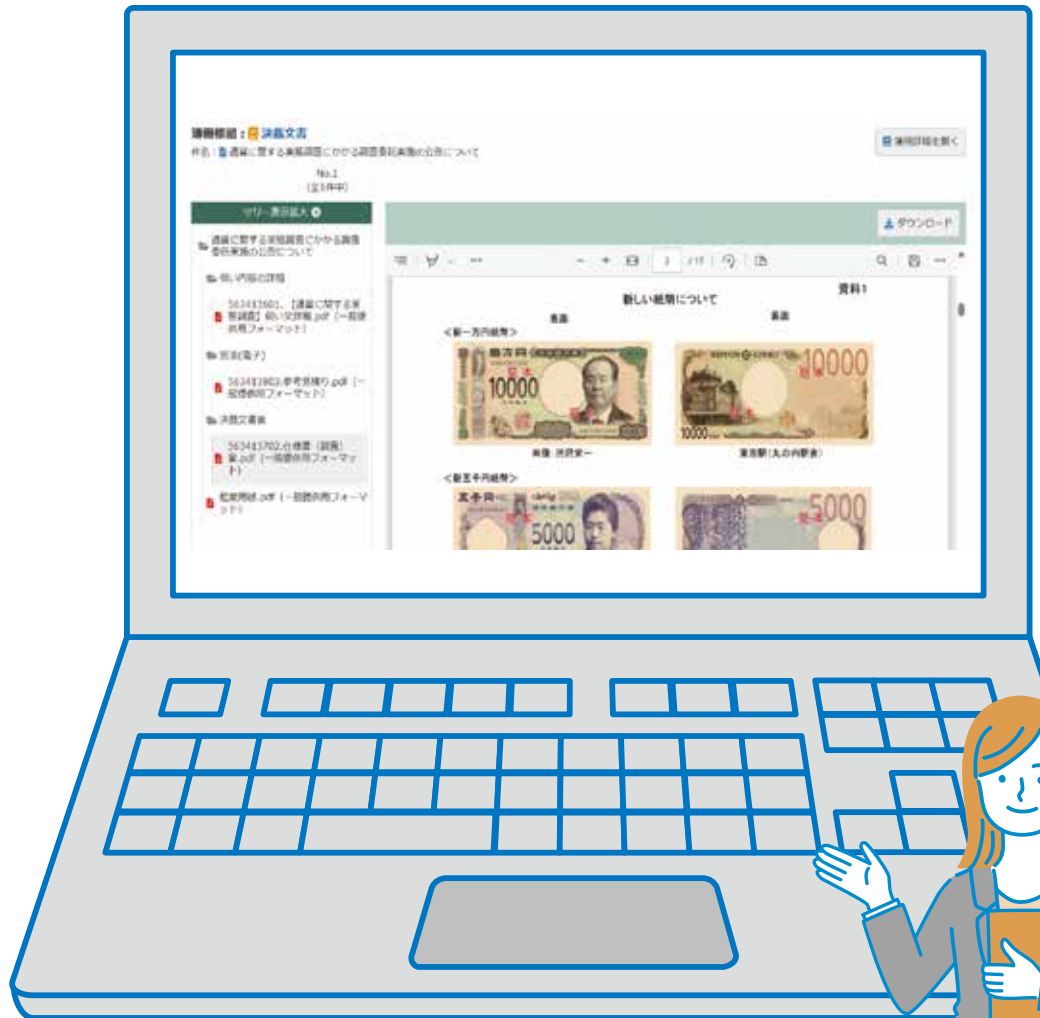
国立公文書館ニュース

Vol. **42**
2025.6～2025.8

｜ 特 集 ｜

電子公文書の今

デジタル技術による
公文書の管理



【連載】

今号のアーカイブ……………	5
Information ……………	6
アーキビストに聞く……………	7
展示会情報……………	8

電子公文書の今

デジタル技術による
公文書の管理

公文書は紙のイメージが強いかもしれませんが、最近ではパソコンなどで作成されたデジタルデータのまま保存されることが多くなってきました。

本号では、このデジタルデータの公文書＝「電子公文書」について紹介します。



電子公文書とは

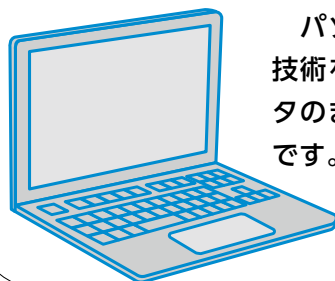
?

Q

電子公文書ってなに？



A



パソコンやスキャナなどのデジタル技術を用いて作成され、デジタルデータのまま取り扱っている公文書のことです。



Q

国立公文書館は電子公文書をどれくらい保存しているの？



A

国立公文書館では累計で約 9,000 件（令和 7 年 6 月現在）の電子公文書を保存しています。1 年あたりの受入れ量は、5 年前に比べ 10 倍以上になっています。

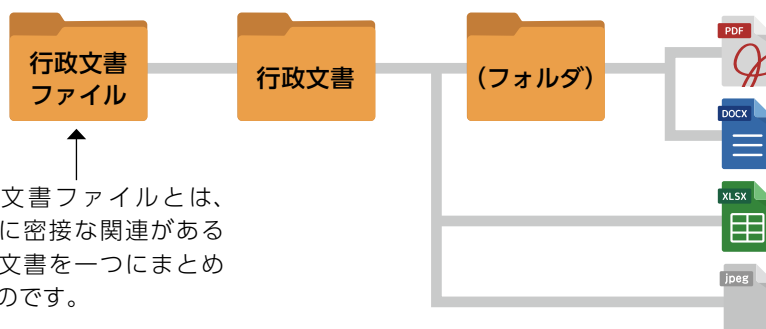
電子公文書の作成から利用までの流れについては左ページの図を参照してください。



電子公文書の「1 件」とは？

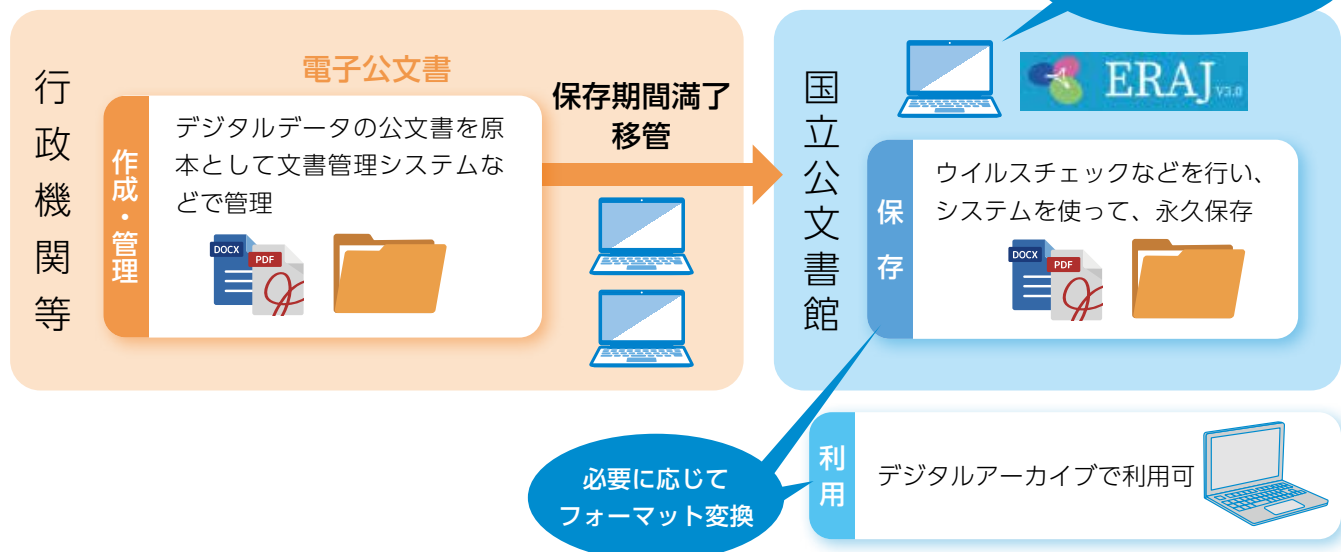
〈行政文書の例〉

これらまとめて 1 件



※行政文書ファイルとは、相互に密接な関連がある行政文書を一つにまとめたものです。

電子公文書の作成から利用まで



電子公文書の利用



Q 電子公文書を利用してみたいのですが？

A 電子公文書は、「デジタル」であるため、インターネットを通じて、時間や場所に制約されずに利用することができます。

国立公文書館では、基本的には「国立公文書館デジタルアーカイブ」で電子公文書を利用に供しています。そのため、いつでも、どこからでも電子公文書を利用することができます。

※検索方法については右図のとおり



1

国立公文書館デジタルアーカイブから文書を検索
※詳細検索で「電子公文書」の絞り込み可

2

閲覧ボタンをクリック

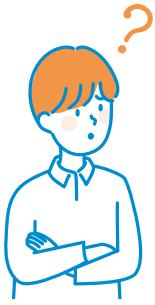
令4財務E0032100



3

電子公文書の一般提供用データが表示される。

電子公文書の保存



Q 電子公文書は、どうやって管理しているの？

A 文書の管理に必要な情報（メタデータ）を、個々の電子公文書に付与して、セキュリティが確保された環境で管理しています。



Q メタデータっていったい何？

A メタデータは「データに関するデータ」と呼ばれています。「この電子公文書はどんなものなのか？」を説明するデータです。

Q 電子公文書は消えたりしないの？

A 国立公文書館では電子公文書を、主に「電子公文書等の移管・保存・利用システム」で保存しています。このシステムでは、情報セキュリティ対策やバックアップを行っています。

Q 電子公文書はいつまでも読めるの？

A 電子公文書は、世の中の技術に大きく影響を受けるため、何も対策を施さなければ、電子公文書を「読める」期間は、紙などに比べると短いと言えるでしょう。将来、世の中の技術が変化した場合には、例えばフォーマットを変換するなど、読める状態を確保し続けていく必要があります。

現在、そして将来の人のびとが電子公文書を利用できる状態にするためには、作成や保存時がとても重要です。どんなフォーマットで作成し、様々なリスクに備え、どのように保存しておくか、考える必要があります。

国の行政機関においては、電子公文書を、長期保存のリスクが低いPDF/AやJPEG、MP4などの「標準的フォーマット」で作成し保存することが定められています。

電子公文書のガイドブックを公開中

国立公文書館では、電子公文書の作成・保存・利用に関する基本的な知識や考え方に関し、広く電子公文書の管理にかかわる人々の実務の参考に資するよう「電子公文書の作成・保存・利用ガイドブック」を作成しました。

また、地方公共団体のアーカイブズ機関との意見交換や行政機関等へ技術支援を行っています。



概要版
(pdf)



前編
(pdf)



後編
(pdf)



サマリー
(pdf)



当館は、江戸幕府から引き継いだ古書・古文書、国の行政機関から移管された公文書等を保存し、利用に供しています。当館の所蔵資料の中から、今号は令和7年に新たに重要文化財に指定されることになった『^{れいけんこう ぼ}霊憲候簿』を紹介します。

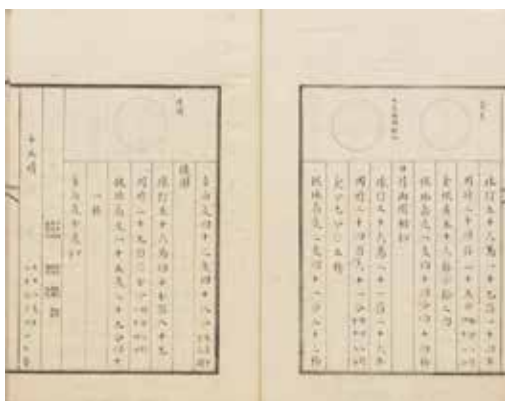


国立公文書館が所蔵する『^{れいけんこう ぼ}霊憲候簿』が、 令和7年に重要文化財の指定を 受けることになりました。

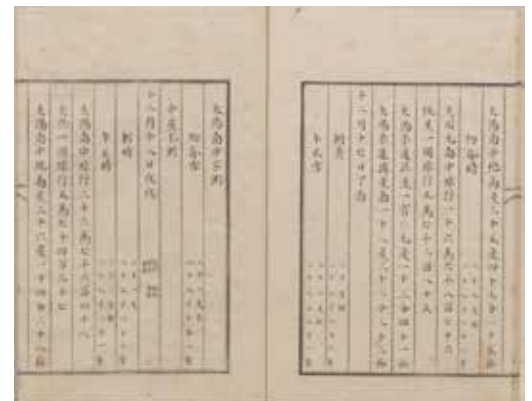
『^{れいけんこう ぼ}霊憲候簿』は、天文方の^{かげすけ}渋川景佑（1787～1856）が幕府の命を受けて作成した天文観測記録です。

令和7年3月の文化審議会において、「19世紀中葉の天体及び気象の測量記録として貴重であり、同時代における西洋天文学の受容と測量技術の実態を伝え、我が国の天文暦学史、気象史上に価値が高い」との評価を受けました。

請求番号：特 006-0001



天保10年8月1日に観測された金環日食の記録

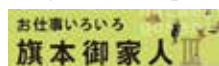


江戸に3尺（約90cm）の大雪が降ったといわれる天保12年12月17日の気象データ

渋川景佑による天文観測は天保9年（1838）11月に小石川三百坂の自宅内の測量所で始まり、同13年（1842）6月以降は、九段坂上の測量所で次男^{すけかた}佑賢や多くの下僚の協力を得て、安政元年（1854）まで、17年間続けられました。

子午線儀・垂揺球儀・象限儀等を用いた天文観測のデータのほか、毎日の天気や気温・気圧も記録されています。

「旗本御家人」



デジタルアーカイブ



「デジタル展示」

<https://www.archives.go.jp/exhibition/past.html>
東京本館の展示会を再構成し、当館HPで公開しています



「国立公文書館デジタルアーカイブ」

<https://www.digital.archives.go.jp>
当館所蔵資料の目録の検索や画像の閲覧などができます



デジタル展示「書物を愛する人々」新規公開

当館では東京本館で過去に開催した特別展・企画展を再構成したデジタル展示を、ホームページで公開しています。この度、平成28年度第3回企画展として開催した「書物を愛する人々」が、デジタル展示に新たに加わりました。当館が所蔵する江戸時代の蔵書家たちの愛蔵本をご紹介します。

当館のホームページの「展示会情報」→「過去の展示会」→「企画展」から、ぜひご覧ください。



トップページ



家業のかたわら、書画骨董の収集に努めたことで知られる木村兼葎堂（1736～1802）の旧蔵書である『宋版鉅宋広韻』（漢字を音の末尾の響きに基づいて分類整理した書、国指定重要文化財）

【請求番号：重 003-0003】

夏の国立公文書館見学ツアーのご案内

毎年好評をいただいている親子、中高生、教員向けの各見学ツアーを、今年も開催します。閲覧室、修復室などのバックヤード見学のほか、当館所蔵資料の閲覧体験など、初めての方でも楽しめるプログラムです。ぜひご参加ください（参加費無料、要事前申込）。それぞれのツアー

で、見学プログラムや申込期間等が異なります。詳細につきましては、ホームページをご確認ください。

開催日

- ・親子向け見学ツアー 7/28(月)
- ・中高生向け見学ツアー 8/4(月)
- ・教員向け見学ツアー 8/22(金)



ふらっとツアーのご案内 (令和7年6月～9月)

当館概要の説明後、バックヤード（閲覧室、修復室、書庫設備）を見学し、常設展を観覧するツアーを開催しています（所要時間1時間程度）。

事前申込不要、参加費無料です。ぜひご参加ください。

開催日 6/5(木)、7/31(木)、8/28(木)、9/11(木)

開始時間 各日いずれも13:30～
開催日は、ホームページの【見学予約カレンダー】をご確認ください。



ご寄附のお願い

国立公文書館では、事業の拡充・発展を図るとともに、事業を確実に実施するため、個人・法人を問わず広くご寄附の募集を始めました。いただいたご寄附は、国立公文書館が所蔵する特定歴史公文書等の保存及び一般の利用等のために適切に活用させていただきます。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



(pdf)



アーカイブズで働く専門職員・認証アーキビストに仕事の醍醐味などを聞くコーナーです。

学習支援業務を拡充し、 若年層の方にも気軽に当館を活用いただきたい

国立公文書館 展示・学習支援担当 永江 由紀子さん

元々歴史に興味があり、大学では日本史を、大学院では教育史を専攻しました。歴史資料を扱う実習やゼミを通して、自然と資料の持つ重要性やその魅力に惹かれるようになり、国立公文書館をはじめとする各地の公文書館や、資料館等に足を運びました。調査の過程で、資料を必要としている人が必要ときに使えることの重要性に気づき、公文書館で働いてみたいと思うようになりました。

国立公文書館では、これまで展示や広報に関する業務にそれぞれ5年間ほど携わり、昨年度からは学習支援担当の業務に就いています。

展示担当としての印象深い出来事は、耐震工事で東京本館が使えなかった平成二十四年度に、初めて館外展示を行ったことです。京都と大阪の二ヶ所で行ったこの展示会は、開催場所に関連した資料を選定し、オリジナルな内容で構成しました。普段の展示会場とは異なる環境で、会場レイアウトを工夫したり、当館業務紹介コーナーを設けたりするなど、貴重な経験ができました。館外展示の取組は、この後、継続的に実施されています。

広報係に所属していた時期は、平成から

令和への改元と重なり、当館のオリジナルグッズとして発売したクリアファイル「平成」が、過去に経験がないヒット商品となったことが思い出に残っています。この商品を求めて、連日多くの方が当館に足を運んでくださいました。お買い求めくださったお客様をそのまま帰すのではなく、展示をご案内したり、再度の来館を促すお声をかけをしたりするなど、リピーターになっていただくための取組を積極的に行いました。

現在担当している学習支援は、新館を見据えて、若年層の方にも当館を活用いた



学習コンテンツ 動画「女性参政権」より



きたいとの思いから立ち上がった部署です。昨年度は、学習コンテンツを新規制作・公開したほか、中学校や高等学校に足を運び、当館所蔵資料を用いた出前授業を行いました。出前授業では、生徒さんに対し、当館デジタルアーカイブやコンテンツを用いて、明治・昭和期の資料に書かれた内容を実際に読み解く体験を行っていただきました。資料読解から得られた気づきを、仲間同士でディスカッションし、発表を行うという一連の流れから、資料を読み解く楽しさを味わってもらえたように感じます。授業後は、生徒の皆さんに当館にご来館いただき、実物の資料に触れる場も設定しました。これらの取組を通して、主体的に考える教育の一助になればと考えています。このほか、キャリア教育への関与など、学習支援業務はアイデア次第で様々な挑戦ができるため、とてもやりがいをもって励んでいます。

今後は、学習支援業務を拡充し、特に若年層の方に対する学びの場として、当館を積極的に活用いただけるようになればと期待しています。

6～8月の東京本館開館情報

※最新の開館情報については当館HP等をご確認ください。

	6月	7月	8月
展示室 〔1階〕	終戦 一戦の終わりと戦後の始まりー 7/19～9/15 (8/25は休館) 期間中の毎週金曜日は午後8時まで開館		
	「終戦の詔書」 原本特別展示 8/8～8/21		
基本展示「日本のあゆみ」	＊開室日：月曜日～土曜日、展示会開催期間中の日曜日 ＊閉室日：6/16 (月)、7/6 (日)、7/13 (日)、8/25 (月)		
閲覧室 〔2階〕	＊開室日：火曜日～土曜日(日曜日、月曜日、祝日は閉室) ＊時 間：午前9時15分～午後5時(入室・当日閲覧受付は午後4時30分まで)		



展示会情報

令和7年度第1回企画展

万博 —日本と博覧会の歴史—



開催時間：午前9時15分～午後5時
6月16日(月)は休館

1851年にロンドンで初めて開催された国際博覧会(万国博覧会)。日本は、慶応3年(1867)のパリ万博に江戸幕府や薩摩藩、佐賀藩が参加して以来、国際博覧会をはじめとする様々な博覧会に関わってきました。令和7年(2025)は、日本で20年ぶりとなる国際博覧会、大阪・関西万博が開催中です。この機会に、幕末から現代に至る日本と博覧会の歴史を当館所蔵資料でたどってみましょう。



▲日本大博覧会の開催が閣議決定される

明治39年(1906)、政府は博覧会開設臨時調査会の決議を受け、明治45年に「日本大博覧会」を開催することを決定しました。日本大博覧会は、開催地を東京と仮定し、外国にも参加を呼びかける国際博覧会として計画され、その規模は内国博覧会と万国博覧会の中間に位置するものでした。しかし財政難などの理由で2度延期され、結局実現しませんでした。画像は日本大博覧会開催を閣議決定した際の文書です。請求番号：類01020100



▲国際博覧会条約が公布される

昭和3年(1928)に国際博覧会の開催ルールなどを定めた国際博覧会に関する条約が締結されました。日本は長く条約を批准しないままでしたが、昭和39年12月に衆参両院の全会一致で批准され、昭和40年2月8日に条約加盟国となりました。画像は昭和40年1月22日に同条約が公布された際の御署名原本です。請求番号：御42525100



▲日本万国博覧会(大阪万博)が開催される

昭和40年(1965)、日本万国博覧会の開催が決まり、関連法令の整備や担当大臣の設置など開催準備が進められました。画像は昭和41年10月に開催された第3回日本万国博覧会関係閣僚協議会の議題です。こうした準備を経て、昭和45年に大阪府千里丘陵を会場に日本万国博覧会が開催されました。請求番号：昭55科技00172100

予告

令和7年夏の特別展「終戦一戦争の終わりと戦後の始まりー」

令和7年7月19日(土)～9月15日(月・祝) ※8月25日(月)は休館

※期間中の金曜日は午後8時まで開館
会場：国立公文書館東京本館

「終戦の詔書」
原本特別展示

「終戦の日」(8月15日)を含む期間に「終戦の詔書」の原本を特別に展示いたします。

展示日時：8月8日(金)～8月21日(木)



「国立公文書館 友の会」 会員募集中!

詳しくは
こちらから



ホームページ



国立公文書館ニュースweb版

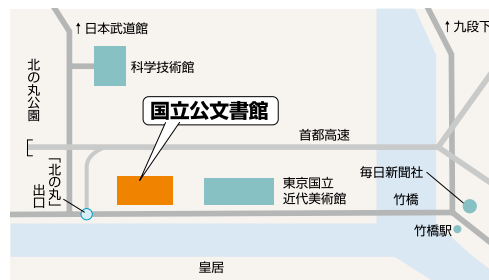


X(Twitter)



Facebook

国立公文書館
東京本館
アクセス



【東京本館】 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園3番2号
電話03-3214-0621(代表) FAX 03-3212-8806
【つくば分館】 〒300-4246 茨城県つくば市上沢6番6号
電話029-867-1910(代表) FAX 029-867-1939